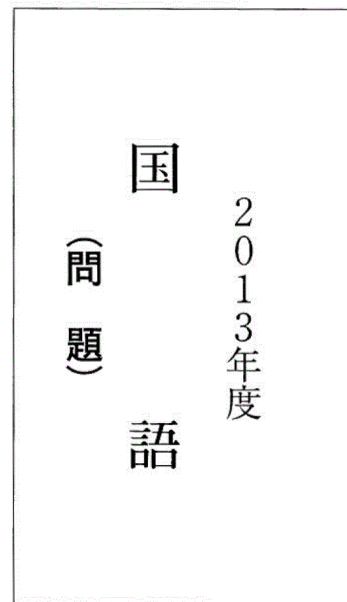




〈H2507BY16〉

注意事項

- 1 試験開始の指示があるまで、問題冊子および記述解答用紙を開かないこと。
- 2 試験中に問題冊子の印刷の読みにくい箇所、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
- 3 マーク解答用紙記入上の注意
 - (a) 印刷されている受験番号を確認したうえで、氏名欄に氏名を記入すること。
 - (b) 解答用紙の解答欄は、HBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルでマークすること。
 - (c) 解答は指定された解答欄にマークし、その他の部分には何も書かないこと。
 - (d) マーク欄には、はっきりとマークすること。また、訂正する場合は、消しゴムでていねいに、消し残しがないようによく消すこと（砂消しゴムは使用しないこと）。

(例)

マークする時	マークを消す時
● 良い	○ 良い
○ 悪い	○ 悪い

- 4 記述解答用紙の所定の欄（二箇所）に、氏名および受験票に記載されている受験番号を正確に記入すること。受験番号は、右詰めで記入し、番号欄に余白が生じる場合でも、番号の前に「0」を記入しないこと。

※ 数字は読みやすいように、はっきり記入すること。

(例)

3	8	2	5	番
↓				
万	千	百	十	一
	3	8	2	5

読みにくい数字は採点処理に支障をきたすことがあるので、注意すること。

数字見本
0
1
2
3
4
5
6
7
8
9

- 5 余白には、何も書かないこと。
- 6 いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。

一 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

印章と貨幣を考えてみよう。メソポタミアの円筒形の印章は、そこに刻まれている図を粘土板のうえに転がして、痕跡を残す。版の一種としていくらかでも同じ像を作り出すことのできる、最初の複製技術である。印章はひとつひとつ異なる。その痕跡のもつ価値は、その印章からしか生まれまいというところにある。

いっぽう、ある物体が貨幣として機能するには、物理的な質と量が認められるだけでは十分ではない。¹ 物体は交換されてはじめて価値をもつ。動物や貝などが通貨として使われる場合でさえ、それは人間の手から別の人間の手へと渡らなければならぬ。メソポタミアの印章や粘土板、そしてギリシアやローマの貨幣は、イメージの遍在性を考えるうえで重要なヒントを含んでいる。

印章は確かにそこに刻まれているひとつのモチーフを無限に転写することができるが、その持ち主の使用の範囲によって限定される。ふつう印章は、それを転写する人間と一義的に結びついている。形式的には署名と同じものと見なされているのは現代と変わらない。

それにしても情報化時代になぜ印鑑が使用され続けているのか、不思議といえど不思議である。歴史を知らない外国人のなかには、簡単にコピーすることのできる印鑑が、どうして署名と同格の扱いを受けることができるのか訝しがる人もいるだろう。

形式的に似てはいても、署名と印章は異なる。署名と捺印がセットになってきたことは、歴史的な文書に明らかである。文書は、書字とイメージがセットになって、つまり知的身ぶりに象徴が伴うことによって、オーソライズされてきたのだ。²

ギリシアのコインも、その初期には限定された地域で使用されていたと言われる。流通よりも象徴としての機能のほうが強く、³ 鑄造されても特定の場所にとどまるケースもあった。その初期にはまだ印章性を保っていた。

だがコインに刻まれた女神や皇帝の横顔は、やがて広い世界を渡ってゆく。ローマ帝国の初期には、ギリシアのコインが受け継がれて使用されていたが、貨幣に刻まれたイメージは地中海世界へと拡がっていった。今日わたしたちが「マネー」と呼んでいるものの本質は、その過程で備わったものである。

マネーの語源が女神の名モネータにあることはよく知られている。モネータの横顔がホられたコインもあるところから、「お金の神様」と思われることも多いが、もともとモネータは福や富をもたらす神ではない。ローマのカピトリノの丘近くにあったモネータの神殿には、度量衡の原器が納められていたと言われる。モネータは **A** の神様だったのである。ある物体が正貨として認められるための核心は、質量の保証にある。モネータの神殿はまた、行政文書の記録を預かる保管庫とも通じていた。物質を計る神は記録を管理する神、すなわち **B** を測る神だったのである。

ローマ神モネータが計量と記録というふたつの働きを司るのは、そのギリシア名に由来する。それはギリシア神話では、記録の神として知られるムネモシユネである。ムネモシユネは芸術の神タムーサの母として知られ、西欧の芸術に多様なインスピレーションを与えてきた神であるが、ローマ時代には別の顔を伴って、丘のうえにクニン^bしていたことになる。別の顔、すなわち土地の大きさや貨幣の重さを保証し、経済を安定させる神としての顔である。

モネータが度量衡の神であると同時に、記憶の女神であることは、イメージの遍在性を考えるうえで興味深い。⁴ 記憶が集団的な行為となるとき、わたしたちの社会ではそれを記念と呼ぶ。記念物すなわち「モノユメント」もまた、ムネモシユネやモネータと語源を同じくする言葉である。ローマのコインはギリシアのそれとは異なる歴史を歩んだが、そこに皇帝の顔をはじめとした帝国の系譜が刻まれている。貨幣は帝国がそのイメージを複製し流通させるための、重要な複製技術となっていた。

このような女神の来歴が物語るのは、貨幣が価値であると同時に、イメージでもあるということだろう。それが資本となりいわゆるマネーとして地球の隅々に行き渡るのは、それからさらに時代を経てからだだが、「資本の増殖」という現象は、すでにこのときに胚胎していたと考えてもよいかもしれない。⁵

これを貨幣のモネータ性と仮に呼ぶならば、その性格は基本的に今日でも変わらず続いている。それはどの国であっても、通貨のデザインに端的に表れている。通貨のデザインが表すのは権力のイメージであり、国民国家を代表するイメージである。この点で、EUの共通貨幣「ユーロ」のデザイン、特にその紙幣の図案は非常に特異なものであると言える。補助通貨、つまりコインについては加盟国がそれぞれ独自にデザインをしているが、紙幣のほうは共通である。

この「共通通貨」の特徴は紙幣にある。

各国の紙幣には、多くの場合、何らかの意味でその国を「代表する」とされる人の顔が印刷されているが、ユーロの紙幣にはそれがない。顔の代わりに使われているのは建築物である。ギリシア人もドイツ人もそれがどこにある建物だとバクゼン⁶と思っているかもしれないが、そうではない。ユーロのデザインは、世界中どこを探しても見つからない、架空の建造物を「顔」にしているのである。

発効してから十年あまりのあいだ、ユーロは幾度かの危機に見舞われてきたが、そのたびに共通通貨の矛盾が指摘されてきた。通貨は共通でも、財政政策はEUに加盟する各国に任されており、しかもそれぞれのあいだに深刻な対立が存在するからである。紙幣に描かれる建造物は、何であつてもよいというわけではない。常識的には、その価値を保証する建物がそこにあるべきだろう。

共通通貨は歴史上幾度か創設されてきた。経済史でよく知られているのは、フランス、イタリア、ベルギー、スイスを中心となった「ラテン通貨同盟」だろう。一八六五年に発行されたとき、フランスの硬貨にはナポレオン三世の横顔がほられていた。

二十世紀がアメリカの時代だったなら、EUは二十一世紀のローマ帝国を描いていたかもしれない。だが残念ながら、ヨーロッパにモネータの神殿は存在しない。ユーロという通貨には、未だに責任を負える建物がないのである。ユーロは基軸通貨かもしれないが、「顔」をもたないかぎり、それは永遠に疑似通貨のままかもしれない。そのユーロを破綻の危険にまでさらしているのが、ギリシアやイタリアだという事実を、古代の神々はどう見ているだろうか。

いやそれは神々に失礼というものだろう。言うまでもなく問題はユーロだけのものでないからである。マネーはグローバル資本主義そのものである。マネーの影響から逃れることのできる地域は、事実上存在しない。その遍在性は神々以上のものであり、それに比することのできるはおそらくイメージだけだろう。人間が生み出したもののなかで資本とイメージほど強大になったものはない。その力、その速度、その自在性はますます増すばかりである。

⁸しかしユーロがどうなるかが、イメージと資本は加速度的にヨーロッパを変えてゆく。一九八九年の冷戦崩壊以前にはヨーロッパにはいろいろな風景があった。東欧では商品広告のいつさいない風景も珍しくなかった。ドライブインのメニューにも、それぞれの土地柄が反映されていた。

だがリスボンからベルリンまで、高速道路だけで行けるようになった今日、窓から見える景色にはどこか似た印象を受ける。あらゆるサービスが「チェーン」となり、同じカラーのホテルやレストランが大陸を覆っている。⁹EUは確かに「単一市場」となったのである。

高速を降りれば、さらに既視感は強まる。都市の中心街へ向かう街道沿いの光景は、看板の文字が違うだけでほとんど同じである。自動車販売、スーパーマーケット、家電の量販店……どこで見たのか思い出せないのは、同じイメージの広告が延々と続くからだ。そして中心街に入り、いちばんの目抜き通りに到着すると、既視感ではなく「すでにそこに来たことがある」という確信が変わってゆく。目抜き通りに建ち並ぶのは国際ブランドのショッパであり、ウィンドウの中身は広告でよく知っている商品である。空港のトランジット・ラウンジのような風景。そこは確かに「すでに来たことのある場所」なのである。

これはモータリゼーションとともに始まった「フランチャイズ化」の究極の姿と言えるかもしれない。¹⁰サービスとノウハウをパッケージにした経済は、ロゴに代表されるイメージを売ることによって、瞬く間に欧州全体を覆ってしまった。これを「イメージの経済」と呼びたい。現代世界ではイメージの経済が都市を作っていると言ってもいいだろう。たとえば世界中どこへ行っても、郊外に造られる住宅地は似ている。それは新興住宅地がフランチャイズ化されたサービスと一体化してデザインされるからだろう。家を買うことは、イメージの経済によって提供されたライフスタイルを買うことと直結するからである。フランチャイズ化された都市は次々に自己増殖を続けているから、やがて地球全体がそうになってしまうかもしれない。

このような事態を支えているのは、言うまでもなくモータリゼーションと並んで現代世界を変えてきたモバイル化という現象である。かつては特定の土地と結びついて

C

していたものが、世界同時に

D

するというモバイル

性の究極が実現しているということだ。

問一 傍線部 a、c の片仮名を、漢字（楷書）で解答欄に記せ。

問二 傍線部 1 「物体は交換されてはじめて価値をもつ」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適当なものを次のイ、二から一つ選び、その符号の記入欄にマークせよ。

- イ 他のものが持つ可能性を、その物体が無限に代替できるから。
- ロ 物体そのものの使用価値は限定的だが、交換価値は無限だから。
- ハ 交換されることで、物体が他の物体が持つイメージをも取り込めるから。
- ニ 交換されることで、物体が印章とは違った複製性を持つようになるから。

問三 傍線部 2 「象徴」とあるが、何の「象徴」か。本文の語句を用いて五字以上十字以内で解答欄に記せ。

問四 傍線部 3 「その初期にはまだ印章性を保っていた」について、次の問いに答えよ。

(I) ここで言う「印章性」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを次のイ、二から一つ選び、その符号の記入欄にマークせよ。

- イ 印章が、契約を保証する徴となること。
- ロ 印章が、実体を離れてイメージとなること。
- ハ 印章が、複製技術と不可分の関係にあること。
- ニ 印章が、ある人物と密接な対応関係にあること。

(II) 「印章性」が領土の拡大と結びついた状態を記述した一文を、本文から三十五字以上四十字以内（句読点を含む）で抜き出して、最初と最後の三字をそれぞれ解答欄に記せ。

問五 空欄 A と空欄 B に入る最も適当な語を次のイ、二からそれぞれ一つ選び、その符号の記入欄にマークせよ。

- イ 過去 ロ 形式 ハ 尺度 ニ 時間 ホ 重量 ヘ 本質

問六 傍線部 4 「記憶が集団的な行為となると、わたしたちの社会ではそれを記念と呼ぶ」とあるが、筆者がこのような説明を加えるのはなぜか。その理由として最も適当なものを次のイ、二から一つ選び、その符号の記入欄にマークせよ。

- イ ギリシアの貨幣は地域限定だったが、ローマの貨幣は世界的に広く用いられたことを示すため。
- ロ 貨幣が共通の価値を表すものと認識されることで、自己増殖的に価値を増してゆくことを示すため。
- ハ たとえばローマの皇帝は、帝国という集団を代表することで、世界征服が可能となったことを示すため。
- ニ 記憶の女神モネータが一地方においてだけでなく、広く信仰されることで貨幣の価値を支えたことを示すため。

問七 傍線部 5 「モネータ性」を構成する二つの要素を示す語句を本文から抜き出し、それぞれ解答欄に記入せよ。

問八 傍線部6「ユーロのデザインは、世界中どこを探しても見つからない、架空の建造物を「顔」にしている」とあるが、このことを指摘することで、筆者はどのようなことを暗示したかと思われるか。その説明として最も適当なものを次のイ〜ニから一つ選び、その符号の記入欄にマークせよ。

イ ユーロというイメージに頼る通貨が、ヨーロッパとしての本質を奪ったということ。

ロ 貨幣は価値で、通貨はイメージだと言えるが、ユーロは価値よりもイメージが先行しているということ。

ハ ユーロは理念だけがあつて、それを通貨として保証する制度が弱いので、信頼性が十分確保できていないということ。

ニ ユーロは二十一世紀の帝国を目指していたかもしれないが、古代の建造物のような、帝国を象徴する建造物を持ち得ていないということ。

問九 傍線部7「マネーはグローバル資本主義そのものである」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを次のイ〜ニから一つ選び、その符号の記入欄にマークせよ。

イ コントロール不可能だということ。

ロ 加速度的に価値を増していくということ。

ハ 各国の思惑が象徴的に現れるということ。

ニ 全世界を覆っていながらどこにも存在しないということ。

問十 傍線部9「EUは確かに「単一市場」となったのである」という記述は文脈上ある効果を持っている。その表現上の効果をどう呼ぶか。本文にはない漢字二字の言葉を考えて、解答欄に記せ。

問十一 傍線部10「サービスとノウハウをパッケージにした経済は、ロゴに代表されるイメージを売ることによって、瞬く間に欧州全体を覆ってしまった」ことを、筆者は直後で「イメージの経済」と呼んでいる。「イメージの経済」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを次のイ〜ニから一つ選び、その符号の記入欄にマークせよ。

イ 理念だけが先行した経済。

ロ 過去の理念を再現しようとした経済。

ハ さまざまなものがパッケージ化された経済。

ニ 世界を一つのイメージで均質化してしまうような経済。

問十二 空欄 C と空欄 D にはどちらも「へんざい」と読む漢字が入る。それぞれ、楷書で解答欄に記せ。

問十三 筆者は後半部（傍線部8「しかしユーロがどうなるうが」以降）において、何を言おうとしているのか。その趣旨として最も適当なものを次のイ〜ニから一つ選び、その符号の記入欄にマークせよ。

イ ユーロ圏では郊外にブランド化された高級な新興住宅を作り出すなど、経済活動をイメージに変換することに成功している。

ロ ユーロは通貨として十分安定していないのに、グローバル資本主義がやるべきことだけはやっていて、ヨーロッパの個性を破壊している。

ハ ユーロによってヨーロッパは均質化され、さらにモータリゼーションの影響で、かつてのヨーロッパのイメージをどこでも見ることができるようになった。

ニ ユーロ圏としてのヨーロッパは単一のパッケージによって開発するノウハウを持ったために、全世界を支配する帝国のような様相を呈するようになるだろう。

次の文章は『浜松中納言物語』の一節である。中納言は亡き父が唐土の皇子に転生していることを知って、唐土に渡った。これを読んで、後の問いに答えよ。

后のおはすると、ことごとく見れば、御年二十ばかりやおはすらむとおぼえて、御顔のやうたい、細くもあらず、ふくらにもあらず、よきほどなるが、中すこし盛りたる心地して、御色の白さは、はりせらむといふとも、これにはまさらざりけむとおぼゆるに、¹ あいぎやう、いみじくにほひかをりて、眉ものよりけだかく見なし給ふに、くちびるは丹といふもの塗りたるやうに、いささかもねぢけたるところなく、あたりまでにほひて、髪上げうるはしき御さまにて、のどかながめ出でつつ琴を弾き給ふ。この世にかかることを見るやと、あさましきまでおぼゆ。²

日本の人は、ただうち垂れ、³ 額髪も縫りかけなどしたるこそ、わがかたざまに、なつかしくなまめきたることなれど、思ひ出づるに、うるはしくて、⁴ 簪して髪上げられたるも、人がらなりければにや、これこそめでたく、さまことなりけれと見るに、ものの音さへ世に知らず聞こゆるに、若き女房七、八人ばかり、天降りけむ乙女の姿かくやと見えで、菊の花もてあそびつつ、⁵ 「蘭蕙苑の風の」と若やかなる声合はせて誦じたる、めづらかに聞こゆ。御簾のうちなる人々も、「この花開けて後」と口ずさび誦するなり。ことに男子は歌詠むるを、女はえ詠まぬにや、花を見ても文を誦じ合へるはと、知らまほしきに、后、御簾をおろして入り給ひぬ。 X なかなかに、半ばなる月を見る心地するに、え堪へず花のもとにあゆみ出でたるを、いたうあきれおどろきたるけしきもなし。すこし、はた隠れつつゐたるところに、花を取りて立ち寄り給ひて、⁶

⁷ ふるさとを恋ふる心を忘るるはこの花見つる夕べなりけりと、⁸ ころみに言ひかけたれば、⁹ 団扇さし出で、ただ待ち取るほど、わが世の人にことならず。

枯れでさはこの花やがてにははなむふるさと恋ふる人あるまじくと答へたるけはひ、言はぬにはあらざりけりと、をかしくおぼさる。

皇子出で給ひぬれば、ゐなほり給ひぬ。「おもしろき夕べなり」とて、御琴ども取り出でて賜はせたる。ありつる御面影のめでたさは、名残のにほひまで、わが身にしみぬる心地して、琴の音のおもしろさへ耳につきつつ、かき立つべきかたもおぼえず。¹⁰ 后も御簾のもとにて、つくづくと御覧するに、よろづめでたくすぐれたりける人かな、この人帰りのなむのち、見ずなりなむこそあはれなれと、人知れず涙落ちておぼされけり。

(注) はりせらむ…前漢の成帝の後、班婕妤のこととされる。

「蘭蕙苑の風の」…『和漢朗詠集』に載る菅原文時の詩句。

問一 傍線部1「あいぎやう、いみじくにほひかをりて」はどのような様子を述べているか。最も適当なものを次のイ

- ホの中から一つ選び、その符号の記入欄にマークせよ。
- イ たきしめた香りが部屋中に漂って魅力的な様子。
- ロ 愛らしい顔が高貴で、いかにも後にふさわしい様子。
- ハ 理想的な女性が可愛らしい声をあげて笑っている様子。
- ニ こぼれるばかりの魅力が照り映えるように表れている様子。
- ホ 美しい女房たちの香りが混じり合い、すばらしい香りとなった様子。

問二 傍線部2「おぼゆ」、5「ゐたる」、9「おぼえず」、の主語をそれぞれ次のイホの中から一つ選び、その符号の記入欄にマークせよ。

- イ 后 ロ 皇子 ハ 中納言 ニ 女房たち ホ 唐土の男性

問三 傍線部3「うるはしくて」の意味として、最も適当なものを次のイホの中から一つ選び、その符号の記入欄にマークせよ。

- イ 気高くて ロ 若々しくて ハ 輝いていて ニ 可愛らしくて ホ きちんとしていて

問四 傍線部4「これ」が指すものとして、最も適当なものを次のイホの中から一つ選び、その符号の記入欄にマークせよ。

- イ 琴 ロ 簪 ハ 后 ニ 女房 ホ 中納言

問五 空欄 X に入るものとして、最も適当なものを次のイホの中から一つ選び、その符号の記入欄にマークせよ。

- イ あかず ロ うれしく ハ あはれに ニ なつかしく ホ つきづきしく

問六 傍線部6「ふるさと」が具体的に指す語を本文から抜き出して、解答欄に記せ。

問七 傍線部7「この花」にたとえられているのは何か。最も適當なものを次のイ～ホの中から一つ選び、その符号の記入欄にマークせよ。

イ 琴 口 后 ハ 団扇 ニ 皇子 ホ 女房たち

問八 傍線部8「言はぬにはあらざりけり」はどういうことを述べているか。最も適當なものを次のイ～ホの中から一つ選び、その符号の記入欄にマークせよ。

イ 唐土の女性は和歌を詠むのだった。

口 唐土の女性は漢詩が不得意だった。

ハ 唐土の女性は口でいうほど積極的ではなかった。

ニ 唐土の女性は不吉なことを口にしないわけではなかった。

ホ 唐土の女性は声に出さず書き記すことで和歌を詠むのだった。

問九 傍線部a～fについて、文法的に正しい組み合わせを次のイ～ホの中から一つ選び、その符号の記入欄にマークせよ。

イ a「に」とc「に」が同じ。

口 b「ぬ」とd「な」が同じ。

ハ b「ぬ」とe「ぬれ」が同じ。

ニ d「な」とf「な」が同じ。

ホ e「ぬれ」とf「な」が同じ。

問十 二重傍線部「この花開けて後」は『和漢朗詠集』からの引用であるが、元々、唐の漢詩人元稹が作った、次の漢詩をふまえている。この漢詩を読んで、後の(1)～(3)の問いに答えよ。

Y 繞^{めぐり} 舍^{いへ} 似^{タリ} 陶^{タリ} 家^ニ

遍^{レバ} 繞^ニ 籬^ヲ 辺^ニ 日^ヲ 漸^ク 斜^{カタク}

不是 花 中 偏 愛 菊

11 此 花 開 尽 更 無 花

(注) 陶家…陶淵明の家 籬辺…垣根のあたり

(1) 空欄 Y に入る語として、最も適當なものを次のイ～ホの中から一つ選び、その符号の記入欄にマークせよ。

イ 春宵 口 夏虫 ハ 夏花 ニ 秋空 ホ 秋叢

(2) 傍線部10の白文をすべて平仮名で書き下すところになるか。最も適當なものを次のイ～ホの中から一つ選び、その符号の記入欄にマークせよ。

イ このはならざるなかのきくをひとへにあいす。

口 このはなのなかにあいするきくをへだてんとせず。

ハ これはなのなかにひとへにきくをあいするにはあらず。

ニ はなのなかにひとへにきくをあいすることをとめず。

ホ これはなにあらざるはひとへにきくをあいするにあたれり。

(3) 傍線部11の白文の意味として、最も適當なものを次のイ～ホの中から一つ選び、その符号の記入欄にマークせよ。

イ この花ほど美しい花は、他には存在しないということ。

口 この花が咲き終われば、当面咲く花がないということ。

ハ この花の咲く時間は短いので、大切に見なければならぬということ。

ニ この花が一番好きなので、愛する人もその前では色あせるとのこと。

ホ この花を好きとはいえないのは、同じ時期に咲く花がないためだということ。